

# 女性医師部会による 女子医学生との懇親会

医療法人社団丘のうえこどもクリニック

坂田 葉子

私たち、女性医師部会では、旭川医大に勤務されている女性医師達の協力をいただき、年に一度「女子医学生との懇親会」を開催しています。女子医学生達がこれから直面するであろう様々な問題に、先輩医師として、また働く妻・母として、少しでもアドバイスできたらと考え、平成16年より開始。5年生からは臨床実習が始まりますので、対象は2年生～4年生。各学年の試験期間をぬつてのあわただしい日程の中、医大の機器センター3階カンファレンスルームをかりての始まりでした。

第一回目は平成16年12月1日。どれくらいの数の学生さんが集まってくれるだろう、どの様に進めていったらよいのだろう、はたして今の学生さん達は我々の考えに共感してくれるのだろうかなど、不安でいっぱいでしたが、学生30名、女医側15名ほど出席がありました。会の進行は、まず、療育センターの宮本先生に「女性医師の現状について行われた全国調査」の結果を報告していただき、その後、実際の先輩医師のこれまでの生き方（卒業してから現在に至るまで）として、長峯先生（当時旭川医大総合診療部勤務、旭川医大18期、既婚、子未）と私（小児科開業医、旭川医大5期、既婚、子2人）が話をさせていただきました。始めは私達を前にして、緊張していた学生さん達でしたが、司会の大池先生の話術のおかげもあって、なかなか話は尽きず、あっという間の2時間でした。話題の中心は、各医局の女医の受け入れ態勢（結婚・出産を前提に）、家庭と仕事をどの様に両立させていくかなどが中心でしたが、「この狭い世界で、どうやって将来の伴侶となるいい人を見つけたいのだろうか」などというかわい質問もありました。もっともっと話が聞きたいという学生数人と夕食をともにされた先生もいた

ようです。

「参加してよかった」、「これからもこのような機会を持ってほしい」という学生さん達の声に後押しされ、平成17年12月7日、第二回目が行われました。今回は、出来るだけ多くの科の先生に出席いただき、様々な立場でお話いただくと考え、いろいろな科の先生に声を掛け、その結果、内科・小児科・皮膚科・耳鼻科・眼科・整形外科・形成外科・精神科そして基礎からは病理、行政からは保健所の先生の参加を得ることができました。科によって、研修の状態は全く異なります。「研修を積みながら、どの時期で結婚し、どの時期で出産するか」、その考え方にこんなに違いがあるとは、私自身も思ってもみない事でした。また、留学を体験されている先生も数人いたため、留学についても話題になりました。最後の質問、「これから自分たちが勉強していくうえで、特に力を入れておいたほうが良いと思うことは？」に、英国帰りの皮膚科、山本先生が間髪いれず、力強く「語学！英語！」と答えていました。今回は、リピーターの学生さんも多かったようですが、これから医師としての道を歩んでいくうえで、とても参考になったと思います。サンドイッチ・飲み物の軽食を用意して下さった、医師会にも感謝しています。

3回目となる今年は、少人数単位で、もっと深いディスカッションをしたいという学生さん側からの要望もあり、医者+学生で7人程度の小グループに分け、最後に全体のディスカッションをするという形式で行いたいと思っています。現在参加して下さっている医者は30～40代が中心ですが、今回は、50代・60代・70代の先生方にも参加していただけたらと思っています。是非よろしくお願いします。

私が学生の頃、女子学生は全体の約1割しかいませんでした。世の中全体、女性の進出できる分野は限られ、結婚したら、あるいは子供が生まれたら仕事をやめる、そんな女性が多い時代でした。せっかく供に6年間勉強し、医師となった同期でさえも、家庭に入ってしまった人も何人かいるほどです。社会にでてからも常に女性であるということ意識させられ、なかなか自分の思うようには進めませんでした。それに比べ、今はありとあらゆる仕事に女性が進出し、結婚・出産後も仕事を持ち続ける女性が増加しています。旭川医大の学生も約半数を女性が占める時代になりました。刻々と変化する研修制度を経て、医師としての自分の仕事を全うしながら、結婚し子供を育てることが、ごく普通のことになろうとしている今、我々が経験しなかったような迷いやストレスが生じてくるでしょう。私達は、そんな時少しでも力になればと考えています。

